

危機管理課

ドローンを活用した災害対応

「災害時における無人航空機による支援協力に関する協定」締結報告式



木山市長(中央左)と関係事業者の皆さん

市はドローン関係事業者5社(※)および庄原グロバル・ドローンイノベーション協議会と「災害時における無人航空機(ドローン)による支援協力に関する協定」を8月に締結し、10月7日、報告式を行いました。

災害時には、迅速かつ正確な情報収集が重要ですが、道路の寸断などにより陸路での情報収集が行えない場合が想定されます。今回の協定締結により、ドローンを活用して、被災状況の確認・調査が可能となり、災害時の応急対策や速やかな災害復旧につながることを期待されます。

木山耕三市長は報告会で「今後、皆さんの協力をいただきながら、防災体制のさらなる充実に努め、市民が『暮らしの安心』を実感できるまちづくりに取り組んでいきたい」と話しました。

※ドローン関係事業者(5社)
 ▼(株)C o r d e (株)e i
 ▼(株)N O S O N ▼(株)大蔵組
 ▼(株)ハニービーワークス ▼(株)ロボティクス

都市整備課

「緑ゆたかなまちづくり」

第37回全国都市緑化ひろしまフェア都市緑化シンポジウムin庄原



パネルディスカッションの様子

9月27日、国営備北丘陵公園北エリア里山の駅庄原ふらりで、「第37回全国都市緑化ひろしまフェア都市緑化シンポジウムin庄原」が開催されました。

「全国都市緑化フェア」は、昭和58年から毎年各地で開催されている、国内最大級の花と緑の祭典です。「緑ゆたかなまちづくり」をテーマに、緑がもたらす快適で豊かな暮らしのあるまちづくりを進めるための普及啓発活動を行っています。

当日は、庄原市ふるさと大使で、世界で活躍している石原和幸さんが「花の持つ力」をテーマに基調講演を行いました。

また、「花と緑のまちづくりの魅力と可能性」をテーマに、パネルディスカッションが行われ、コーディネーターに日本園芸福祉協会理事長吉永成恭さん、パネリストに石原和幸さん、北海道ガーデン街道協議会副会長上野砂由紀さん、しようばら花会議理事長佐藤浩子さん、Flower&Cafe hanatojyo山岡翼さんがそれぞれの思いや意見を語りました。

高齢者福祉課

安心して暮らせる地域づくり

生活支援体制整備事業実践報告会

市と庄原市社会福祉協議会は9月26日、庄原市ふれあいセンターで、生活支援体制整備事業実践報告会「ささやかだけど、キラッと輝く地域の取り組み」を開催しました。

生活支援体制整備事業は、安心して暮らし続けることができる地域をつくるため、地域のつながりを生かし、見守り合いや支え合い、集まりの場づくりなどを、地域住民が自らの手で進める事業です。

3回目の開催となった今回は、高野地域(上高・下高自治振興区)、庄原自治振興区、帝釈自治振興区の3地域が事例を発表しました。

ちよつとした困りごとの手助けをしてくれる店などの情報をまとめた「便利帳」、地域の実情に合わせて作った「防災マニュアル」、自治会単位の地道な「見守り合いの仕組みづくり」、地域で使える医療・介護サービスの確認と住民同士の助け合い・声の掛け合いを併せて進める「自治振興区版地域包括ケア」の取り組みなどが報告されました。



発表を聞く参加者



高野地域の発表

どの事例も、まだ取り組みの半ばながら、大事な視点や関わる人の熱意が伝わってくる報告となりました。参加者は「思いがとても伝わった」「地道な活動の積み重ねが、安心して暮らせる地域の将来へつながる」と感想を話していました。